

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（令和5年度）

令和6年1月25日(木) 作成

校長 山本成利

記述者 教頭 河西 修

学校教育目標

「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- 自ら学ぶ生徒（知）
- 心豊かな生徒（情）
- よく働く生徒（意）
- 体を鍛える生徒（体）

学校経営目標

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現
- (2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成
- (3) 愛情と信頼・生徒理解に基づく生徒指導
- (4) 安全で安心の学校づくり
- (5) 開かれ、信頼され、地域に誇れる学校づくり

1 全体評価

〈自己評価より〉

- ・39の質問項目によるアンケート形式で、全教職員（41名）から回答を得た。
- ・すべての項目において、肯定的回答率（A評価＋B評価）が70%以上であった。
- ・肯定的回答率が高いものは、Ⅲ－1「あなたは児童生徒の学びの意欲を喚起する授業をおこなっている」、Ⅳ－5「あなたは問題行動の早期発見・早期対等ができています」である。また、肯定的回答率が低い項目はⅤ－1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導をおこなっている」であった。

〈生徒アンケートより〉

- ・27の質問項目によるアンケート形式で全校493名中466名からの回答を得た。
- ・肯定的回答率が高かったものは、23項目中18項目あった。特に高いものは5「先生はよく勉強を教えてくださいませんか」、6「国語の授業の内容はわかりますか」、12「学校のきまりや約束ごとを守っていますか」、14「清掃をしっかりとしていますか」、27「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の5項目で95%を超えている。
- ・肯定的回答率が低いものとして、15「部活動へ積極的に参加していますか」、23「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、24「将来の夢や希望を持っていますか」があり、生徒の実態として受け止め、分析をし、改善していく必要がある。特に「将来の夢や希望」を抱き、毎日の生活に取り組む生徒が増加するよう支援をしていきたい。

〈保護者アンケートより〉

- ・26の質問項目によるアンケート形式で、444名の保護者からの回答があった。
- ・肯定的回答率が高かったものは、23項目中12項目あった。
- ・回答からは例年以上に保護者の教育への関心の高さを伺うことができる。肯定的回答率が特に低いものとして「地域の行事への参加」がある。また、昨年度に比べ大きく低下しているのが24「ICTを活用した授業」、13「家庭での自主学習」であり、校内研究等、力を入れて取り組んだ内容であるだけに原因を分析し、改善していく必

要がある。

【来年度に向け、改善が必要と考えられる内容】

① 学校教育目標・学校経営について

・職場の福利厚生の充実。

② 学校運営について

・職員間の連携・協働とコミュニケーションの充実。

③ 学習指導について

・ICTの活用を効果的に活用した授業改善の実施。

④ 生徒指導について

・生徒の実態に応じた、生き方教育（キャリア教育・進路指導）の充実。

⑤ 地域との連携について

・教育活動の中に地域人材や施設を活用した地域の教育力を生かす指導の充実。

⑥ 学校の特色について

・あいさつを進んで行う指導の継続。

・生徒がより主体的に読書活動や合唱活動に取り組むための指導の継続。

・本校の特色として行っている教育活動（鍛錬やPTA1人一役）への理解の促進と充実。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<p>・全5項目中4項目で95%以上となった。</p> <p>○学校経営方針が学校教育目標を踏まえたものになっており、多くの教職員は校長の経営方針に基づいて、協働参画意識を持ち、意志統一された教育活動を行っている。</p> <p>△職場の福利厚生や健康管理については、夏休み中の年休取得、定時退勤日の設定、事務処理日の保障、個人と学年の連携による負担軽減、ICTを活用した自動採点システムの導入等に取り組んだ。昨年度よりも向上してきたが、長時間勤務や土日勤務の実態は依然として課題である。</p>
改善策	<p>・学校教育目標や学校経営方針に基づいた教育活動が展開されていると捉えることができる。学校教育目標のさらなる具現化を目指し、あらゆる活動でPDCAサイクルを取り入れた教育活動を行い、改善、向上を意識した学校運営を行っている。</p> <p>・職場の福利厚生や健康管理については、本年度の実践を継続する上で、より積極的な職員自身の意識改革が大切である。</p>

II 学校運営について	
達成状況	<p>・全8項目の内、8項目すべてが肯定的回答率80%以上となった。</p> <p>○防犯、防災、事件、事故等へマニュアルを理解し危機対応の訓練等も積極的に行っている。</p> <p>○諸表簿や文書、記憶媒体の管理が適切に管理・活用されており、個人情報保護・情報セキュリティへの管理意識が高い。</p>

	<p>○校務支援システムを十分活用し業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>○他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。特に学年内の情報共有だけでなく、学年間の連携もスムーズに行われている。</p> <p>△業務量削減に取り組んでいるものの、職員全体には多忙化が改善されたという意識は薄い。特に保護者対応や生徒指導を理由にする業務、行事等の準備の業務、評価・進路対応等の業務を理由にする長時間の時間外勤務を行っている現状がある。</p> <p>△教職員の適材適所の校務分掌については、バランスをとった分掌が行われているが、個々の業務量が超過する時期があった。</p> <p>△職務上の「報告、連絡、相談、確認」は管理職と職員だけで行うものではない。各分掌との連携やボトムアップが大切である。また、校務支援やメールの活用は活発に行われているが保護者・教師双方でしっかり活用できるよう周知していきたい。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の個性を伸ばし、主体的で協働的な学びを実現していくために、職員会議や校内研究に職員一人一人がより意欲的に取り組む意識をもつことが求められる。 ・支援や生徒指導上のトラブルを抱えている生徒の増加に対応するため、支援体制や機能改善、効率化に取り組まねばならない。仕事の分担と責任を再考し、仕事量の分散に取り組まなければならない。 ・生徒指導部会を中心とする情報交換や対策会議は各分掌担当の努力により非常に充実している。きめ細かな情報交換や特別支援コーディネーター・不登校担当の指導・助言により本校の支援の充実につながっていくことを忘れてはならない。また、この成果を子どもたちの支援と指導に生かす取組を継続しつつ、関係機関と連携しながら取り組んでいかなければならない。 ・自然災害や感染症への対応等危機管理に対する意識向上のため、マニュアルの徹底や訓練、研修の充実が求められる。不測の事態における、主体的で迅速・適切な対応ができる訓練をこれからも計画的、継続的に実施していく。 ・教育は無限に取り組むことがある。生徒の実情にあわせて、成果を分析し、必要な内容かどうかを取捨選択する機会を確保する必要がある。例年の取組という形で簡単に継続せず、やらなくてよい内容を明確にすることで職員の業務改善に取り組んでいきたい。また、行事検討等も積極的に行っていきたい。

<h3>III 学習指導について</h3>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全7項目中、肯定的回答率が80%以上となったのは7項目中全てであった。 ○基礎基本の定着を重視し、学ぶ意欲を育てる授業づくりや民主的な集団づくりを多くの教職員が継続的に行っている。 ○校内研究と関連づけ、ICTを効果的に活用した授業を行っている。 ○フリートークをはじめとする取組を充実させ協働的な学びを取り入れた授業を行い、生徒の興味関心を高める深い学びの実践に取り組んでいる。 ○自主学習を推進し、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。また、ICTを活用した振り返りについても実践をすすめている。

	<p>〈生徒アンケートより〉</p> <p>○「学校の先生はよく勉強を教えてくれる」が97.6%であり、先生方の授業改善の成果は上がっている。</p> <p>○「国語の授業の内容はわかりますか」肯定的回答率が95.7%（甲斐市91.6%） 「数学の授業の内容はわかりますか」〃 79.3%（甲斐市81.9%） 「英語の授業の内容はわかりますか」〃 81.8%（甲斐市71.4%）</p> <p>△「授業が楽しい」と答えた割合は3年連続で前年度よりわずかに低くなってきている。</p> <p>△家庭学習の時間は目標時間をおおむね達成している生徒は67.8%にとどまる。していない生徒は8.2%である。</p> <p>〈保護者アンケートより〉</p> <p>○「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」は84.2%であり昨年度より上昇している。</p> <p>△「学校はICTを活用した授業改善に取り組んでいる」と考える保護者の割合が更に減少し61.6%となった。学校での使用に比べ家庭学習のツールとして使用する機会が少なかったと考えられる。</p> <p>△「生徒は授業の内容がわかっている」と考える保護者は63.3%と昨年度より下降している。</p> <p>△「スマホの使用時間」は3時間以上29.3%、2時間以上は51.1%と増加傾向にあり家庭学習の時間への影響が懸念される。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習実態を的確に分析し、「個に配慮したわかる授業」や「学ぶ意欲を喚起する授業づくり」, 「やまなしスタンダード」を意識した授業改善の取組を継続する。また、本年度校内研究で取り組んだフリートークの活用を継続し, 「自分の考えを発表・交流する機会」をできるだけ設け, 質問や発言を引き出し協働的な学びにつなげる等主体的・対話的で深い学びの授業改善へとつなげていきたい。 ・家庭学習の充実や主体的な学習習慣の確立に向けた取組を, 今後も学校が一丸となってさらに進めていく必要がある。特にICTを活用した学習や基礎基本の定着にも活用していきたい。

IV 生徒指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全6項目全てが肯定的回答率90%以上となり, 問題行動への早期発見・早期対応が100%であった。 ○いじめ, 不登校等の早期発見・早期対応, 支援の内容や課題は, 生徒指導部会を中心に情報交換が詳細に実施されている。個別の対応が細かく実施されている。 ○教職員は, 生徒理解のために生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。(生活ノートや休み時間の会話など) また, 規範意識を育む指導や生き方教育にも意欲的に取り組んでいる。 ○不登校の生徒や教室に入れない生徒に対して, 自学教室登校やリモート授業を実施している。不登校担当や支援担当だけでなく, 担任を含めた多くの教職員が連携し指導を進めていく必要がある。 <p>〈生徒アンケートより〉</p> <p>○学校のきまりや約束ごとを守る。 →肯定的回答率98.0%と更に向上。</p>

	<p>○清掃活動をしっかりしている。 →肯定的回答率98.0%。</p> <p>○友人関係にストレスを抱えていない。 →肯定的回答率81.1%。</p> <p>○先生はあなたの良いところを認めてくれていると →肯定的回答率95.0%</p> <p>△将来の夢や希望を持っている。 →肯定的回答率64.8%で昨年度より減少。</p> <p>△部活動に積極的に参加している。 →肯定的回答率60.9%で昨年度より減少。</p> <p>〈保護者アンケートより〉</p> <p>○家庭で挨拶をするように指導している。 →84.4%。</p> <p>△お子さんのことで、相談できる先生がいますか。 →67.3%とやや減少。</p> <p>△学校は子ども達の間違った行動に対して学校は指導している。 →81.9%と減少。</p> <p>△学校は学校外でも挨拶するように指導している。 →68.8%と減少。</p>
改善策	<p>・いじめの未然防止と早期発見・早期対応ができるよう、ICTを使った月一回の調査（島っこ調査）を今年度から取り入れた。従来からの二者懇談や三者懇談、紙ベースの相談、i-check 調査実施に加え、養護教諭、担任の日常の情報を迅速に共有し、アンテナを高くして生徒の状況把握に努める。また、生徒指導部会や不登校対策委員会、特別支援教育校内委員会を、より有効なものとしていくことも大切である。</p> <p>きめ細かな情報収集と<u>迅速な対応</u>は今後更に生徒・保護者との信頼関係を深める重要事項である。全職員が改めて最重要課題として意識していく。</p> <p>・教職員は生徒一人一人と保護者にも寄り添いながらコミュニケーションを密にしていく必要がある。更なる情報発信に努め、本校の様々な教育活動を保護者の理解と協力の下に推進させる必要がある。</p> <p>・生徒アンケートにおける肯定的回答率は<u>学習指導、生徒指導（きまりごと、委員会活動、清掃活動）</u>において肯定的回答率が非常に高い。授業以外にも休み時間や清掃時間、部活動を生徒と共に過ごす等、日頃からの先生方の地道な努力の成果と考える。清掃活動、あいさつ、ルールや決まり事を守ることがしっかりとでき、日々成長している敷島中生徒のために、学校は魅力的であること、一人ひとりの居場所であること、自分の夢を育てることができる場所であることが大切である。私たち教職員は気持ちを引き締め、これからも学び続ける教師として日々精進し生徒達の期待に応える専門性を身に付けなければならない。</p>

V 地域との連携について	
達成状況	<p>・全6項目中5項目が肯定的回答率90%以上となっている。低かったのは「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」で71.4%であった。</p> <p>○学校HPの更新回数も多く、各種たよりの発行等も多いので、それら通して、学校の情報を積極的に発信し、本校の教育活動への理解を推し進めている。</p> <p>○本校のPTA活動の一つの特色である「一人一活動」への協力では、「鍛練」や「夏休み中のパトロール」に多くの保護者の協力があつた。また、合唱祭や年輪祭には延べ1000人以上の保護者や地域の方が参観した。</p>

	<p>△地域人材や施設活用を含め、地域の教育力を生かす方策を検討していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は保護者が学校の様子を直接参観できる機会を増やすことができた(授業参観、合唱祭、年輪祭、教育講演会、奉仕作業2回)。保護者の入場制限も基本的にはなくし、非常に多くの方々に参観して頂いた。年輪祭文化部門ではYCC県民文化ホールを活用し、体育部門ではグラウンドの観戦エリアの工夫等を実施し、できる限り多くの保護者や地域の方々に参観して頂けるよう工夫した。 ・学校だよりや学年・学級通信の発行を積極的に行った。ホームページの更新量は増加している。さくらメールによる保護者への連絡や各種通信の送信も積極的に行い情報発信に努めた。また、PTA一人一活動の取組等、活発に行う事が出来た。 ・2学年で実施された地域の企業での職業体験学習は、教育委員会・地元企業・市商工会の支援と協力のもと実施することができた。地元企業の評価も好評であり、敷島中生の成長ぶりを地域に紹介する機会となった。 ・学校ウエディングは全日本ブライダル協会の協力の下、盛大に実施することができ大きな学びの機会となり笑顔あふれる体験学習となった。 <p>〈生徒アンケートより〉</p> <p>△今住んでいる地域の行事に参加していますか。→43.5% (昨年度より微減)</p> <p>〈保護者アンケートより〉</p> <p>○授業参観や学校開放日などは子どもの様子を知る機会となった。→90.8%</p> <p>○学校だより、ホームページから教育活動の様子を知る事ができる。→85.5%</p> <p>△お子さんは今住んでいる地域の行事に参加していますか。→28.8% (昨年度より微減)</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や施設の活用について各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の中で検討し、実践していく。 ・保護者や地域住民に対する学校開放の機会を増やし、敷中教育への理解を一層深める。 ・来年度はコミュニティースクールに移行する。学校運営協議会を中心として保護者や地域の願い、要望等を把握し教育的ニーズに応えるよう努めていきたい。 ・教職員と保護者がPTA活動に主体的に関わっていけるような取組を工夫する。 ・地域の方々との交流や地域行事への積極的な参加についても連絡して呼びかけていきたい。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4項目中すべてが肯定的回答率80%以上となった。 ○リサイクル活動など、本校の伝統的な活動や朝の読書活動を大切にし、継続した取組が行われている。 ○生徒が進んであいさつをする活動は充実している。 ○授業参観、年輪祭、合唱祭、鍛練などへの参加協力など計画的に実施でき、連携・協働ができた。 <p>〈生徒アンケートより〉</p> <p>○だれとでも挨拶をしていますか。 →88.8%</p>

	<p>○フリートークの時間が好きですか。→ 81.1%</p> <p>△一日あたりの読書量→ 30分以下 60.4% 0時間 30.3%</p> <p>〈保護者アンケートより〉</p> <p>○家庭でお子さんにすすんで挨拶をするように指導する。→ 84.4%</p> <p>△一日あたりの読書量→ 30分以下 68.3% 0時間 39.9%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が挨拶を呼びかける実践を実施している。職員も特に下校指導時のあいさつ活動や見守り、保護者や保護司の正門でのあいさつ活動等様々な形で挨拶の啓発活動を行っている。今後は年間をとおして挨拶ができる取組を増やし、平素から自然に挨拶を交わすことができる文化を定着させていく。 ・本校では朝読書を実践している。今後も読書をする習慣がつくよう、すべての教科・行事を通して読書習慣定着を目標に取り組む。 ・N I Eの指定を受け2年目となる。I C Tを活用してデジタル版の新聞の購読など積極的に取り組み、大きな成果をあげることができた。

VII 創甲斐教育について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3項目中すべてが肯定的回答率90%以上となった。 ○生徒の国語力の向上に計画的に取り組んでいる。→ 92.5% ○自己表現力の向上に計画的に取り組んでいる。→ 95.0% ○生徒の体力の向上に計画的に取り組んでいる。→ 95.1% <p>・「確かな学力の質問」まとめ</p> <p>○国語の授業の内容は楽しいですか。→ 95.7%</p> <p>○数学の 〃 → 79.3%</p> <p>○外国語 〃 → 81.8%</p> <p>○学校以外の勉強（1年70分 2年80分 3年90分） いつもしている → 1年70.3% 2年70.5% <u>3年62.2%</u></p> <p>・「豊かな心の育成」質問まとめ（生徒）</p> <p>○学校のきまりや約束を守っていますか。→ 98.7%</p> <p>○人が困っているときは、進んで助けていますか。→ 92.8%</p> <p>△一日あたりどのくらいの時間、読書をしますか。→ 39.6%（30分以上）</p> <p>△不登校児童生徒の割合 → 36人（7.3% 生徒情報より）</p> <p>△いじめ解消率 → 26.9%（残り3か月見守り中）</p> <p>・「健やかな身体」質問まとめ（生徒）</p> <p>○朝ごはんを食べて登校していますか。→ 90.4%（やや増加）</p> <p>・「ふるさとに誇りや愛情を持ち、活躍できる人材の育成」の質問まとめ（生徒）</p> <p>△将来の夢や希望を持っていますか。→ 64.8%（減少）</p> <p>・「家庭・地域・学校による教育の推進」の質問まとめ</p> <p>△今住んでいる地域の行事に参加していますか。→ 43.5%（減少）（生徒）</p> <p>△あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか → 71.4% （教師）</p>

対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式から協働的な学習に着実にシフトしている。特にロイロノートをはじめとする ICT を活用しての話し合い活動や情報共有が当たり前のように実施される授業改善に継続して取り組んでいきたい。 ・生徒が主体的にまとめ、調べあい、議論する学習が盛んに行われているが、ICT を効果的に活用した授業の実施率は 85.3% である。逆に全く使用しない教師がいる実態から「ICT を使えない教師」を無くすため今後も校内研究で教師同士が学び合っていきたい。 ・本校はフリートークを全校で帰りの会の時に行い、自分の考えを表現する機会の増加とコミュニケーション力の醸成に努めていきたい。また、朝読書と N I E の取組を実践し、豊かな心を養うことに努めている。一日あたりの読書量は決して多くはないが、生徒指導上の問題も少なくなりつつあり成果を実感している。今後も積極的にこれらの実践に取り組んでいきたい。 ・確かな学力の育成において数学や英語の授業に対する理解度は伸び悩んでいる。学校以外の勉強時間も同様であり、基本的学習習慣の定着に向け取り組んでいきたい。 ・「体力向上」については、数値的には表れていないがコロナ禍での影響が感じられる。部活動の大会はほとんど影響なく実施され、体育の授業も通常通り実施できている。ただ、マスク着用は推進していないものの、マスクをはずすことができない生徒は依然として多い。今後は、適切な感染症対策の中での生徒達が運動に親しみ、大きな学びや体験を得ることができるよう指導の工夫と確実な時間の確保に取り組んでいく。 ・地域と連携し、今住んでいる地域の行事を洗い出し、また生徒が地域で何をすべきなのかの指針をまとめるなかで地域との結びつきを深めていく取組を行う。
--------	--

3 まとめ

<p><成 果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの教職員が学校教育目標実現に向けて、学校長の学校経営方針に基づいて多様な取組を実践することができた。また、その取組も P D C A サイクルを意識して内容を吟味し、全体に共有しながら実践することができている。各学年主任を中心とした学年職員組織が計画的に教育実践を着実にこなしたことは当たり前のようだが、本校の特徴であり大きな成果と考える。本校の教職員が「協働」する大切さを理解し、職員間の連携を意識しながら、「報・連・相・確」の実践を一人一人が取り組むよう努めている。 ・学習指導については、「わかる授業」「基礎基本の定着を図る授業」への取組を行っている。校内研究では、フリートークを日常的に全校で実施しコミュニケーション力の向上に努め、授業では ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう授業改善を目指し、各教科の取組が実践されており授業が活性化している。話し

合い活動や学び合いやタブレットを活用した授業実践は本年度日常的に行われるようになった。

- ・授業配信によりリモート授業が行われ、登校できない生徒への授業保障も生徒保護者からの要望があり日常的に行われている。不登校生徒の多様な学びの場と機会を保障できたことは大きな成果と考えている。

<課題>

- ・昨年度及び、今年度の学校評価の結果を踏まえ、本校の課題及び改善策を全教職員が共有し、学校運営改善の取組を行っていく。様々な活動において、P D C Aサイクルの段階を丁寧実践し、教育活動の工夫・改善を進めていきたい。
- ・すべての教職員が自己の分掌や役割を認識し、他の教職員と連携、協働する中で、主体的に学校運営へ参画していく意識の更なる向上を図る。連携・協働を更に進めることによって、同僚性を高め、学校の活性化を図っていくようにしたい。
- ・学習指導、生活指導はこれでよいというものはない。課題に気づく目を持ち、組織をフルに活用して改善、向上を目指したい。
- ・ハード面での整備やタブレット等 ICT 機器の充実が望まれる。現状の配置では、教員全員が授業で活用することができないと共に、リモート等に機器を使用するための端末が足りていないなど、活用にあたり支障を来すことも多々ある。教育委員会へ継続して要望していきたい。
- ・生徒が「夢や希望を持つ」ために、体験学習や成功体験を味わうことができるような授業改善や行事検討を行っていく。特に生徒の実態に応じた、生き方教育（キャリア教育・進路指導）の充実に取り組んでいきたい。
- ・改革の精神のもと、保護者、地域と学校の連携を推進し、開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを一層進める。来年度は学校運営協議会を中心として教育活動の中に地域人材や施設を活用した地域の教育力を生かす指導の充実に取り組む。また、P T A 一人一役への更なる理解と協力を保護者と共に推進していきたい。
- ・来年度以降の行事等の精選や業務改善を今後も積極的に行う。特に本校の特色ある教育活動として実践している「読書活動」や「合唱活動」「挨拶活動」「鍛錬」等の日常の取組や行事等を通して、生徒が主体的に取り組んでいけるようにしていきたい。